



DATA

■お問い合わせ先
JA秋田ふるさと 営農企画課
TEL.0182-56-4105
http://www.akita-furusato.or.jp

農作物の残留農薬分析

■各生産部会より「出荷前」「出荷中」「出荷後半」の農作物からサンプルを採取。

■残留農薬を抽出する機械エバポレーター。サンプルを粉砕器で粉砕し、一定量に含まれる農薬成分を抽出。



■ガスクロマトグラフ質量分析計。抽出液から各成分の濃度を測定。分析結果の報告書を作成。



※野菜類と穀類では処理は異なる。

JA秋田ふるさと 農産物総合分析センター

農産物の安全・安心を裏付ける分析センターがあると聞きました。詳しく教えてください。



ナビゲーター
JA秋田ふるさと
営農経済部 営農企画課
農産物総合分析センター担当
伝野 俊幸さん

JAが独自の総合分析施設を持つのは全国的にも珍しいそう。農水省などの行政関係からも視察の問い合わせがありました。新しいセンターになる前も「カドミウム分析」と「玄米の品質・食味分析」だけは管内で行っておりましたが、他は外部委託でした。しかし、コスト面や検査結果が出るまでの時間短縮などを考え、総合的な分析センターの開設に踏み切りました。

「安心とは何か？」を考えた時、当センターの仕事は「安全の証明」をする場所だと思っています。土壌、農薬など、消費者に届くまでのプロセスに存在する不安を分析して、ひとつひとつ「安心の裏付け」をする作業を行っているのです。膨大なデータは、消費者、生産者の安心に繋がる大切な情報です。この情報データをただ蓄積するだけでなく、多くの方に関心を持ってもらうことが大切だと思っています。

分析センターってどんなことをするの？
平成21年11月に開所した「農産物総合分析センター」は、大きく分けて6つの機能を持っています。「カドミウム分析」と「玄米の品質・食味分析」のほか、「農作物の残留農薬分析」「菌床しいたけを対象とする水質検査」「加工品の衛生管理検査」「土壌分析・診断」です。JA秋田ふるさと管内産すべての農産物を対象に総合的な分析を行います。
例えば、玄米の品質・食味を分析した結果は、「生産者へ「お米の通信簿」として、データをお知らせし、それをもとに営農指導が行われます。また、ハウスの土壌分析で、リン酸が過剰だという結果が出たとすると、それは塩基バランスが悪くとれている証拠。塩基バランスが悪いと、肥料の吸収だけでなく微生物も活発に活動できなくなるので、早い段階で障害がでないように処方箋を作り営農指導を行います。

●安心の裏付けをデータ化することは繊細で地道な作業なんですね。これからも信頼できる産地の証明をお願いします！

「安心とは何か？」を考えた時、当センターの仕事は「安全の証明」をする場所だと思っています。土壌、農薬など、消費者に届くまでのプロセスに存在する不安を分析して、ひとつひとつ「安心の裏付け」をする作業を行っているのです。膨大なデータは、消費者、生産者の安心に繋がる大切な情報です。この情報データをただ蓄積するだけでなく、多くの方に関心を持ってもらうことが大切だと思っています。

分析作業はすべてコンピュータで一瞬でできるのでか？
分析に関わる数値はコンピュータが出してくれませんが、実際に機械にかける時間より、検体を砕いたりすり潰したりといった人の手によって行われる前処理に多くの時間がかかります。カドミウム分析を例に挙げると、収穫時期に持ち込まれる150000点の検体の分析を50日程度で終わらせなければなりません。1日3000件ほどの作業量になります。時間的には、前処理に約40分で、1検体分析完了まで1時間ほどかかります。新しいセンターになってからは分析ラインが増えたので、スピードアップすることができました。



1 カドミウム分析の様子。2 農産物総合分析センターは旧里見総合支店だった跡地を有効活用。3 お米の通信簿をコンピューターが作成中。玄米時点での食味の数値、死米、胴割、着色など詳細なデータを分析。4 昨年11月30日に行われた竣工式には、各生産部会長、行政担当者、JA役員などが出席。5 竣工式後に行われた内覧会の様子。6 現在はスタッフ12名でフル稼働。7 分析待ちの検体（玄米）が山積みされたセンター内。